

多世代共住・多文化共生 みらいネット高島平の成果

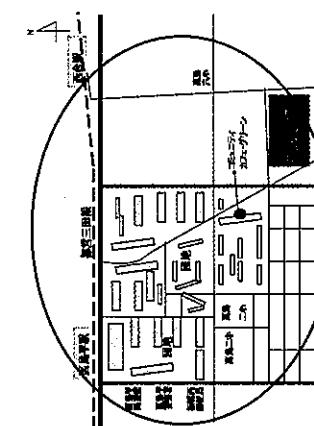
湯子 井上ト高島平事務局 來ツトからみらい

高島平団地学生入居プロジェクト

現在の日本社会は、「無縁社会」という言葉に代表されるよう、人と人とのつながりが希薄になってきています。行き過ぎた資本主義経済の中、日本社会や情勢に不安や焦りを感じながら、日々の仕事や勉強、子育てなどに追われるがあまり、忘れられがちな人と人との繋がりや地域コミュニティを再構築していくことで、「本当に豊かな暮らしとは何か」を表現していただきます。

■高齢化が進む高島平団地×
少子化の波を受ける大東文化大学
私たちの活動は、高齢化が進む東京都板橋区の高島平団地と少子化の波を受ける大東文化大学が共に協力することで相乗効果を図ろうと、2004年から始まりました。

マイナス×マイナス＝プラス。一見、マイナスに捉えられる要素を掛け合わせることでプラスの効果を生み出そうということです。地域と大学が協力し合うことで、互いにもつと元気で魅力のあるまち・大学を目指す



地盤は泥と岩の二種不造なる。

私たちの活動の運営主体となつてゐる、みらいネット高島平ト高島平のメンバーには、高島平地域の方々、大東文化大学の学生、教職員がいます。月に一度の話し合いの場「三者協議会」にて意見交換をしながら協力し合つて活動を進めています。活動の責任主体は、太東文化

中心とした集合住宅の活用が進んで行く見通しです。
(2) コミュニティカフェ：ゲーリングの運営

ここで主に行われることは、学びあい教室です。学生や地域の方々が得意なことや専攻、趣味、経験などを活かして教室を開いています。教室といつても、考えるプロが主催しているのではなく、あくまでも得意または好きな人が主催します。お互いに「学び合う」というスタンスで進めています。

この運営のベース（人的確保）となっているのが高島平団地学生入居プロジェクトの学生達です。地域活動を展開する上で、実際に動ける人材の確保はとても重要な点ですが、私たちの活動は、高島平団地へ入居している学生のコミュニティボランティアによつて

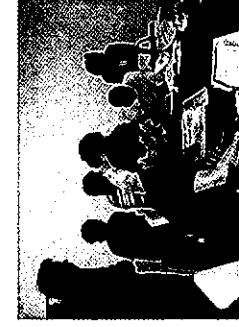
テーマごとに開心のある人がコミュニケーションティカフェ[6]を集まり、世代間交流や国際交流が自然に行われ、小さなコミュニケーションの輪が広がっています。勉強そのものが目的ではなく、「仲間が出来る」ことが一番の楽しさのようです。

■ おもてなしと育児亚の旅

みらいネット高島平は、大学が母体ということもあり、学生教育という視点が大きいプロジェクトになります。多くの中学生が最初にこの活動に参加した動機は、「家賃が安かつたから」です。家賃を安くするためには、両方を天秤にかけ、「それ位ならボランティアをしてもらいかな」と入居していく学生が多いのが実情です。コーディネートするのが難しいこともあります。しかし、今まで、特に社会貢献やボランティアに興味のなかった学生が、活動を始め、大きく変わつて行く瞬間を数多く目にしました。



指示を受けて行うボランティアではなく、活動はく自分の得意なこと、出来ることで、人が喜ぶことなら何でも良いことなっています。学生たちは、自身で決めた活動で地域の方々の笑顔に触れられるとと共に、必要とされる存在となり、学校と家以外の「居場所」が持てたのを実感します。



三

私自身、社会が目まぐるしく変化する新しい時代への転換期には、自身の志を強く持つことが一番重要と考えています。見えない将来への不安に焦るよりも、自身の強みや特技を社会に還元し、人との繋がりの中で自己を確立し、社会のニーズに対し、自らが仕事を創るという姿勢を持つことが生きて行く力になるのではないでしょうか。

現在、同じ高島平の地域活性化を目的としたNPO法人ドリームタウンの設立申請をしていますが、みらいネット高島平と共に、新しい働き方やライフスタイルを社会起業という手法も取り入れながら、地域という舞台で実践し、志ある人材を輩出し、誰もが輝くことの出来る生態系を地域で創造できればと願います。



井上 溫子（いのうえ わづこ）	みらいネット高島平事務局 Twitter: @AtsukoINOUJE
2008.3	大東文化大学環境創造学部 准教授
2008.4	大東文化大学環境創造学部 准教授
2010.7	NPO法人ドリームタウン設立 代表取締役社長

存在となり、学校と家以外の「居場所」が持てたのです。最初は 教室をオドオド進める子供たち